

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校 学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる視野の広い、心豊かな青年を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇教務		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・1・2年次では全ての授業が少人数で行われているのだが、アンケートにおいて、生徒の数値(14)が下がっている。その一方で保護者の数値(17)は好転しており、生徒の意識付けを図りたい。3時間の家庭学習(32)は肯定が増加しているが、できていないという生徒の現状があり、家庭学習で取り組むべき事の把握(31)がされていないこととの関連がうかがわれ、問題である。 ・生徒へのアンケート調査の教職員の項目で学習指導・生徒指導(7)悩みや相談事への対応(9)は昨年度からの上昇傾向が続いている。専門的知識(8)授業の教え方や説明(10)については、昨年度マイナス傾向にあったのが、好転した。特に1年生が肯定的である。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業・習熟度別授業の充実や効果的なAL型授業、ICT機器の活用を含め、授業力向上を図り、授業改善に努める。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会を中心に上記の重点目標をテーマとした校内研修を教科会との連携のもと、実施していく。昨年度までのAL型授業の研究を元に、今年度導入されるICT機器の活用を進める。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 少人数・習熟度別授業の実施、評価方法のさらなる研究 (2) 自宅学習3時間以上の目標 (3) (1)(2)を達成させるため教科会の充実、授業力の向上を含めた教育力の向上 (4) 従来のAL型授業の実践を元に、ICT機器を活かした効果的な授業方法・評価方法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生徒・保護者による授業評価および授業に関するアンケート (2) 生徒の宅習時間調査の結果 (3) 生徒懇談、保護者懇談会等での意見吸収 (4) 単位未修得者数、定期考査、対外模試での成績評価 (5) 学習指導委員会や教科研究会での評価・反省 		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・前期・後期にそれぞれAL型授業を中心とした公開授業週間を実施。期間内に研究授業・教科研究会を実施 ・全教科において前期終了時に授業評価の実施 ・自宅学習時間3時間以上を目標として授業内容、課題を設定。 ・各教科で共通テストや新学習指導要領を見据えて、効果的な評価方法を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科内で活発に授業参観が実施され、研究授業後の教科研究会が有意義なものとして実施されたのか ②授業評価結果が授業改善へと活かされているのか ③自宅学習時間が目標の3時間を超えたか(宅習時間調査) ④評価の研究ができたか 	<p style="text-align: center;">(A) B C D</p> <p style="text-align: center;">(A) B C D</p> <p style="text-align: center;">A B (C) D</p> <p style="text-align: center;">A B (C) D</p>	
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでのAL授業の研究や、思考力判断力表現力を問う問題作成の蓄積と、ICT機器の導入により、授業の改善が進んだ。各教科会で活用方法を検討し工夫を重ね、研究授業での実践も行われた。昨年の反省を生かし、木曜6限を総合的な学習の時間とすることで時間の確保ができた。 ○全職員の担当2クラスにおける生徒による授業評価を実施。各教員の反省・点検にも繋がった。アンケートを集計する中で各学年、各教科の傾向や課題もわかった。 ▲自宅学習時間調査について、4月当初と定期テスト前の1週間で「宅習時間調査」を行った。調査時には3時間以上の学習ができているが、部活動と学習の両立を目指す本校においては、平常日の意識付けが課題である。 ▲少人数・習熟度別授業の効果を生徒に実感してもらえるような授業内容や進め方等を検証する必要がある。新入試への対応を意識した授業改善をさらに進める。 		
12 来年度に向けての改善・方策案			
<p>単位制導入から3年目となり、学校設定科目の実施など新しい多治見高校の姿が整う年度となる。これまでの自然科学コースの取り組みや、AL型授業研究の成果を生かすとともに、従来型授業も含めて、あるべき授業について模索したい。“教員の授業力向上”や“教員力向上”について学校全体で取り組んでいかなければならない。</p>			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月10日

【意見・要望・評価等】

- ・授業を参観して、ICT機器の導入により板書が簡潔になり、授業がテンポよく進んでいると感じた。ついて行ける生徒には有効だが、一方でそのテンポについていけない生徒へのフォローが必要である。
- ・パワーポイントの授業など、生徒の学ぼうという気持ちを引き出せていて、授業が変わったということ強く感じた。
- ・単位制で少人数授業であることの利点をどう生徒に自覚させるか考える必要がある。
- ・ICT機器を活用した授業の資料は先生方が作っているとのことだが、先生方のスキルも問われると感じた。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路支援」については、生徒・保護者とも66～67%が肯定的評価で概ね良好ではあるが、さらに満足度を高め生徒の進路実現の支援を図っていききたい。 ・進路の支援として「情報提供」が重要であると考えてきたが、生徒で肯定的評価が64%であるのに対して、保護者で85%であり、進路説明会（講演会）やホームページによる情報発信の機会を増やしてきた成果であり、今後も更なる内容の充実を図っていききたい。 ・「サタスタ・補習」に関する項目での評価は、生徒・保護者とも低調であったが、改善傾向も見られ、否定的（CD）評価が減少し、その分肯定的（AB）評価が増加している。課題となるのは、学年が進行につれ肯定的評価が低くなっている点である。進路を意識した学習の必要性がある中で、希望制による補習の実施で参加者が少ないことなど、生徒の意識改革も必要になってくる。また、参加したことによるメリットを感じられる実施方法や内容となるよう見直しを図ることも必要である。 ・「進路行事」では、生徒68%、保護者72%が肯定的な評価であり、進路を考える役に立っている状況が見られ、今後の継続できるようさらなる充実を図りたい。 ・「総合的な学習の時間（ゼミ学習）」については、学年別に見ると1年生の肯定的評価が28%と特に低くなっている。2年生では69%、3年生で46%であり、取り組んできた学年とこれから取り組む学年との差が出ており、全体的な評価が下がっている。今年度は「ふるさと教育」に関するいくつかのゼミが開講され、地域と連携する中で様々な活動を通して評価を得ている。このような活動により2年生での評価が高く、有意義さを感じている。これらの取組が進路に直結してくることを認識させていききたい。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇生徒一人一人の自己効力感・自己有用感に基づく進路実現のための支援に努める。 ◇新しい入試制度及び次期学習指導要領を見据えた入試動向を精査し、それに対応できる指導方法の研究に努める。 ◇ゼミ学習における「課題探究型学習」の取組とともに「ふるさと教育」を推進する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部会での情報交換・協議を通して、意思疎通を図り、協力体制での進路指導を推進する。 ・進路情報の収集と学年会との連携、および職員への情報提供。 ・進路情報の収集と速やかな情報提供を進めるため、他分掌や学年、教科との連携を図る。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路目標（国公立大学50、難関大学5合格）を設定し、達成するための目標を具体化するとともに、生徒一人一人の進路実現のための支援を行います。 (2) 卒業生、保護者、地域、大学等との連携と協力を推進し情報の提供や発信に努め、進路意識の高揚を図るため開かれた進路指導を推進します。 (3) 生徒一人一人の自己効力感・自己有用感の高揚を図り、主体的に進路を選択・実現できるための支援を行うなどキャリア教育を促進します。 (4) 新入試制度や新学習指導要領を見据えた入試動向を精査し、それに対応するための情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 模擬試験や入学試験の結果で評価します。「生徒の希望に沿った進路指導」に関する生徒及び保護者アンケートで評価します。（AB評価 生徒70%以上、保護者80%以上） (2) 各行事に対する生徒アンケート、「進路情報の提供」、「講演や体験学習など授業以外の学習の機会」に関する生徒及び保護者アンケートで評価します。（満足度80%以上、AB評価 生徒70%以上、保護者80%以上） (3) 「一人一人の能力に応じた指導」「サタスタや夏期補習」に関する生徒及び保護者アンケートで評価します。（AB評価 生徒・保護者70%以上、生徒・保護者50%以上） (4) 「進路行事」に関する生徒及び保護者アンケートで評価します。（AB評価 生徒・保護者70%以上） 	

<p>や指導方法の研究を推進します。</p> <p>(5) 「課題探究型学習」について、ゼミ学習を通して実践するとともに、「ふるさと教育」に関する取組を取り入れます。データ分析による研修・検討会実施</p>	<p>(5) 「探究ゼミ」に関する生徒アンケートで評価します。(AB評価 50%以上) 模試、入試での生徒成績・結果を分析する。</p>	
<p>8 取組状況・実践内容等</p> <p>(1) 生徒一人一人の自己効力感・自己有用感に基づく進路実現のための支援</p> <p>(2) 進路説明会の実施と外部講師の活用</p> <p>(3) 模試の分析および補習・サタスタにおける効果的指導の工夫</p> <p>(4) 新入試への対応と速やかな情報提供</p> <p>(5) 「課題探究型学習」の実践</p>	<p>9 評価視点</p> <p>(1) 学校の進路の数値目標達成</p> <p>(2) 生徒の実態に応じた事業推進とアンケートによる満足度</p> <p>(3) 生徒・保護者の評価結果</p> <p>(4) 情報の共有と生徒・保護者の評価結果</p> <p>(5) 生徒による評価と外部評価</p>	<p>10 評価</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
<p>11 成果課題</p>	<p>▲3年生の平日の希望者補習については多様に提供できているが、参加者数がやや少ないのが課題である。また、1・2年生のサタスタについては、満足度を高められる内容、運営が課題である。</p> <p>○保護者説明会は7～8割の参加者があり、保護者アンケートでも肯定的評価が85%であり、内容も充実し意味ある会となっている。</p> <p>▲大学入試に関するリンクを貼り、情報提供が行えている。一方で、進路行事等についての情報発信が課題である。</p> <p>●入試制度の多様化に伴い、進路指導部と教科、分掌とが連携を図り、教員全体の意識を高める必要がある。</p> <p>○2年生のゼミ学習では、学年団を中心に生徒・教員共に活発な運営が行われ、地域との連携や外部機関との連携も推進できている。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>①早期（低学年）指導により基礎学力の定着を図るとともに、生徒の実態に応じた進路指導の推進に努める。</p> <p>②国公立大学のAO・推薦入試への意識付けと、地方の国公立大学の魅力を紹介する取組を導入する。</p> <p>③1年生の「総合的な探究の時間」の内容の見直しと、2年生のゼミ学習による地域連携型の取組を継続し、「ふるさと教育」を推進する。</p> <p>④受験態勢へのスムーズな移行が図れるよう、全校体制による指導の必要性を認識し取り組む。</p> <p>⑤体育館改修に伴う、進路説明会の開催形態を考える。</p> <p>⑥大学別入試説明会等の実施による、生徒の進路意識の高揚を図るための働きかけを工夫する。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月10日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ学習（探究ゼミ）について、素晴らしい取組であると評価をいただいた。卒業後の生徒の財産になると評価いただいた。また、そういった活動に協力していきたいとの声もいただいた。 ・賞を取るような取組もあり、地域に認められている証である。 ・ゼミ学習の一環でサイエンスショーなど公民館活動にも協力してもらっているが、参加者から楽しいと好評であった。生徒の思いが参加者に届いている。 ・補習についてのご質問をいただいた。希望者のニーズにどのように応えているかについてのご指摘をいただいた。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校 学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場面において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者評価ともに多くの項目において肯定的評価が70%前後かつ3年間ほぼ同数値で推移している。落ち着いた学校、生徒の姿が数値に現れている。 ・教育相談体制は外部的に評価されにくいだが、相談や問題への早期対応、SCや外部連携など組織的かつ機能的に対応できている。 		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動（判断・行動）を通じて規範意識の高い生徒の育成。 ・生命尊重と安全意識の高揚。 ・生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応の充実。 		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・報告・連絡・相談の連携と生徒情報の共有、共通理解による指導。 ・外部連携を含めた教育相談体制の充実と学年会や他分掌との連携。 		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 挨拶励行、身だしなみ確認週間、遅刻防止情報モラル指導、MSL活動。 (2) 交通安全(登下校)指導、自転車点検、不審者対策、薬物乱用防止講話。 (3) スクールカウンセリングと教育相談講話。いじめの未然防止と早期発見・早期対応。	(1) 育友会、生徒の評価アンケートなど (2) 統計による内容と頻度の年度比較 (3) 生徒と職員の評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会主体のあいさつ活動、MSLの自主的参加と活動活性化。輪番での身だしなみ指導 ・新入生の通学路ハザードマップ作製。月2回交通安全登校指導。不審者情報と注意喚起。 ・生徒や保護者へのスクールカウンセリングや教育相談講話。いじめ調査の複数回実施。 	(1) 生徒の主体的な取り組みと全職員の協力体制による継続的指導。 (2) 各種統計の年度比較。 (3) 生徒、保護者の評価、意見。	A B C D A B C D A B C D	
11 成果課題	○生徒指導部が推進している、規範指導、身だしなみ、交通安全、情報モラル、あいさつ等の指導が生徒意識に定着しており、落ち着いている。 ○教育相談では多くの問題に保護者やSC、外部機関と連携し細やかな支援をおこなっている。 ▲成長発達段階における人間関係トラブルといじめとの区別が難しく、生徒・保護者の申し出のほとんどが「いじめ」と括られている現状やその対応。 ▲問題を抱える生徒増加や問題多様化により担当の負担が重くなっている。		総合評価 A B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に判断し行動できる生徒を育成するための機会提供および規範意識、自己有用感の醸成。 ・職員が共通意識を持ち、共通行動、統一指導できる体制の継続。特にいじめ防止基本方針の理解といじめ防止対策推進法に基づいた対応の徹底。 ・報告・連絡・相談(ほうれんそう)による情報共有と生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応の更なる充実。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月10日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等の結果からいじめ事案が増加傾向にあるような印象を受けるが、一つ一つの事案に対し細やかに対応をしている。SNSで密につながることで人間関係がより難しくなり、苦しむ生徒もいる。いじめの問題対応について先生方は本当に大変だと感じている。 ・いじめとして訴えがあればいじめとして対応し、問題解決していく。判断できない部分については、法律に則り手続きを踏んでいく。お互いの生徒へ安全配慮の対応をしっかりと行うことが大切である。

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号	43
------	----

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動」は活発に行われていると、生徒にも保護者にも肯定的に評価されている。 ・「学校行事」の充実については生徒にも保護者にも高評価を得ている。ただし来年度は体育館が改修工事のため使用できないため、いかに充実感のある行事を実施できるかが課題である。 ・「生徒会活動」が活発に行われていると回答した生徒の割合は、3年間で12%増加したが、66%という数字は高い評価とは言えない。大きな行事以外の活動が、一般の生徒に認知されていないと思われる。 ・「学習と部活動の両立」がしやすい環境づくりについて、生徒に否定的な回答が比較的多いのにに対し、保護者には肯定的な回答が多い。部活動についてはガイドラインにのっとり実施しているが、生徒も保護者も活発に行われていると回答している。そのため「学習」に対して何らかの問題を抱えている生徒が多いのではないかとと思われる。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	文武両立を通した生徒一人一人の自主性の育成と、地域において活躍・貢献できる人材の育成	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動部会での協議を通して、意思疎通を図り、協力して取り組む。 ・部活動・委員会活動の活性化のため、他分掌や学年、教科との連携を図り、協力体制を充実させる。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 生徒が達成感や満足感を感じられる行事になるように活動しやすい環境を整えることで、高い志とチャレンジ精神で臨み、夢を実現できる力の育成に努めます。	(1) 各行事に対する生徒アンケートで評価します。(満足度85%以上)	
(2) HR活動・生徒会活動・部活動等、生徒の自治活動を支援することにより、生徒の自主性や自立心及び人間関係形成能力を育てます。	(2) 生徒及び保護者アンケート調査の「学習と部活動の両立」の項目、LHRの実施状況報告、生徒アンケート(満足度80%以上)、部活動の加入状況及び活動状況、成績等、委員会の活動実績で評価します。	
(3) 学習とともに部活動への積極的な参加を促すとともに、特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高めるように努めます。	(3) 生徒及び保護者アンケート調査で評価します。(A・B評価70%以上)	
(4) 地域行事等の機会を利用した貢献活動(ボランティア活動等)への積極的な参加を推進し、思いやりの心・進んで奉仕する心を養うことで、心豊かな生徒の育成に努めます。	(4) ボランティア活動への参加者数や生徒の活動報告、生徒及び保護者アンケート調査で評価します。(目標参加者200人、A・B評価60%以上)	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 充実した生徒会行事の企画・運営	(1) 行事ごとのアンケート	Ⓐ B C D
(2) 学校活性化のための生徒からの提案	(2) 生徒会の活動状況と感想	A Ⓑ C D
(3) 部活動加入状況・活動状況調査	(3) 部活動・委員会の活動取組実績	A Ⓑ C D
(4) 対外的行事等への参加促進	(4) 参加状況・取組状況	A B Ⓒ D
11 成果課題	<p>○生徒会執行部をはじめ各委員会、部活動に所属している生徒が自発的に動けるようになってきた。</p> <p>○生徒数は減少しているが、全職員体制で行事を盛り上げることができた。</p> <p>○ガイドラインに則り、以前より部活動の時間は減少しているが、生徒は満足感・充実感があるようだ。顧問や担任の先生方のおかげである。</p> <p>▲委員会はそれぞれ地道に活動しているが、認知度が低い。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・放送委員会の活動を広報活動に変えていき、いずれは広報委員会に変更したい。 ・体育館が使用できないため、桔梗祭をはじめとする行事のあり方を考えなければならない。 	
		総合評価
		A Ⓑ C D

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月10日

【意見・要望・評価等】

- ・体育館改修工事の期間と、それに伴う部活動の活動場所に関する対応はどうなっているか。改修期間の部活動等について、公民館など外部施設の活用も考えてはどうか

令和年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校 学校番号 43

I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生 「保健管理」「安全管理」	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>防災対策マニュアルの周知について、肯定的回答は生徒62%、保護者76%であった。生徒、保護者ともに肯定的意見は年々減少の傾向にある。特に生徒については、命を守る訓練や保健指導を活用し周知を図るとともに、災害について危機感や関心自体を高めていくことが必要。</p> <p>校内美化等について、肯定的回答は生徒59%、保護者66%であった。一昨年まで50%を下回っていた生徒の校内美化についての肯定的回答が2年連続増加したことは評価できる。ただ、自分たちが毎日生活し、毎日清掃している環境に対し、40%の生徒が「清掃がいきとどいている」と回答できないことは課題でもある。今年度、防災美化委員による、廊下掃除や大掃除の徹底など一定の効果があつた取り組みは引き続き行い、全校体制で校内美化への意識が高まるよう啓発等実施していきたい。本校では、掃除の必要箇所が多く、生徒・教員ともに人員の配置が足りていない現状もある。体育館や外など掃除時間以外での活動も啓発していくことも課題である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自分の健康に関心を持ち、自己管理できる能力を育成する。 ・研修や訓練を通して万全な危機管理態勢を整える。 ・清掃活動を通して奉仕の心を育て、清潔で快適な環境を整備する。 	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・職員・生徒の救急救命研修、3回の命を守る訓練を計画・実施する。 ・年4回の安全点検を実施し危険・修繕箇所を把握し、事故災害等の発生しにくい環境を整える。 ・毎日の清掃に加え、季節や行事に合わせて大掃除を実施する。 	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 命を守る訓練や救急救命講習の実施 (2) 危機管理の徹底と職員間の報告・連絡・相談の充実 (3) 廊下・階段の重点清掃や大掃除の実施。	(1) 本校職員、講師による評価 (2) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価 (3) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 1年生と職員に救急救命講習、3回の命を守る訓練の実施。 (2) 年4回定期考査時の安全点検の実施、改善箇所のまとめ。 (3) 廊下・階段の重点清掃と美化委員会活動。	(1) 講習、訓練時等の様子 (2) 安全点検の報告・まとめ (3) 生徒アンケート・点検	A (B) C D A B (C) D A B (C) D
11 成果・課題	<p>○1年生と教職員に救急救命講習を実施した。</p> <p>○命を守る訓練を3回実施。(シェイクアウト訓練2回の実施)</p> <p>▲防災マニュアルの周知に関するアンケートでは、生徒、保護者ともに肯定的意見は減少傾向。</p> <p>▲校内美化に関するアンケートでは、改善傾向にあるものの否定的意見も多い。</p> <p>○防災美化委員会による廊下・階段の汚れ落としは効果があつた。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>生徒ひとりひとりの校内美化の意識を高め、掃除の徹底を図る。大掃除や重点清掃だけでなく、日々の全員清掃の意識を高めたい。</p> <p>ひとりひとりが「いつ災害がおきてもおかしくない」それぞれが命を守る行動がとれる危機感、意識・関心を高めることが必要。</p>	
実施年月日：平成2年2月10日		

II 学校関係者評価

実施年月日：平成2年2月10日

【意見・要望・評価等】
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災、減災について地域研究(ゼミ)などで研究していき地域や生徒に還元していくとより身近な問題として考えていけるのではないかと提案いただいた。 ・命を守る訓練の実施方法について、「行う時間やタイミング、生徒や職員への周知は」などの工夫を質問され、シェイクアウト方式をなるべく多く実施していると回答した。

